

専徳寺マニュアルハンドブック

目次

第一章	作法（仏具、合掌礼拝、焼香の作法）
第二章	仏壇（荘厳・給仕）
第三章	勤行（日常、盆、お取り越し）
第四章	法座（お聴聞）
第五章	お世話人と門徒講金
第六章	法事（年回忌、その他の法要）
第七章	葬儀
第八章	お墓・納骨堂（永代供養墓）
第九章	各種活動（仏婦、専徳寺倶楽部、子ども会）
第十章	門徒会館利用会則

コラム1 言葉がかわれば（浄土真宗の言葉づかい）

コラム2 これだけは知っていてほしい事（浄土真宗の教章）

コラム3 分骨について（大谷本廟への分骨）

コラム4 お仏壇には、中央にご本尊、
両脇にお脇掛けをお掛けします



歩み入る者に やすらぎを

去り行く人に しあわせを

第一章 作法

【仏具】

1 はじめに

- ・仏具は決して投げたり、畳や床の上にじかにおきません。丁寧にあつかいましょう。
- ・一人一人が、かならず持つようにしましょう。

2 聖典（せいてん）

- ・お経は、お釈迦さまの説かれたみ教えをインドの文字で書き残したものです。それが中国に伝わり漢字に訳され、日本に伝わりました。このお経や親鸞さまがお書きになったものなどをまとめたものが「聖典（せいてん）」です。
- ・聖典をひらく前と閉じた後には、聖典を“頂^{いただ}き”ます。聖典の下がおおむね目線の高さになるぐらいまで、静かにもちあげましょう。



朱色（しゅほん） 赤本（あかほん）

3 念珠（ねんじゅ）

- ・合掌の時は両手にかけて、ふさを下にたらし、親指でかるくおさえます。合掌しないときは、左手にもちます。

4 門徒式章（もんとしきしょう） ※右図参照

- ・仏事に際しては、僧侶も門徒も服装をととのえます。門徒の方は、念珠とともに門徒式章を着用しましょう。



【合掌礼拝】

1 はじめに

- ・**合掌（がっしょう）**：人間の一番うつくしい姿が手を合わす「合掌」です。
- ・**称名（しょうみょう）**：口に「ナモアマダブツ（南無阿弥陀仏）……」とお念仏をとなえることを称名といいます。合掌をしたら小さな声でも称名しましょう。
- ・**礼拝（らいはい）**：合掌したまま頭を下げるのが礼拝です。礼拝は祈ることではなく、「仏さまのお徳をたたえ、敬い感謝すること」ですから「**お礼をする**」ともいいます。

2 作法

- ①両手を胸の前に合わせて、親指と他の指との間に念珠をかけ、親指でかるくおさえ、指をそろえて約45度上方にのぼします。
- ②肩、ひじをはらず自然に背筋をのぼし、ご本尊をあおぎ称名します。
- ③合掌したまま上体をゆっくり前にかたむけて礼拝（角度は45度くらい）。
- ④静かにもとの姿勢にかえり、両手をそっとおろします。

【焼香の作法（立って行う場合）】

- ① 焼香卓^{じよく}の手前で立ち止まって御本尊^{いちれい}に一礼し、左足から卓^{じよく}の前に進みます。
- ② 香を、右手で一回だけつまみ、いただかずにそのまま香炉に入れます。
- ③ 合掌して「南無阿弥陀仏」とお念仏をとなえてから礼拝します。
- ④ 右足から後退し立ち止まって一礼し、退きます。



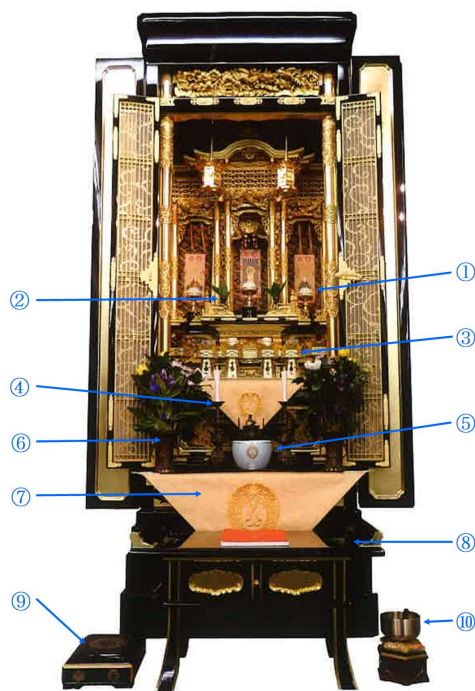
第二章 仏壇（荘厳・給仕）

【仏壇】

- ・仏壇は、ご本尊（阿弥陀如来）をご安置するものです。「お内仏」ともいいます。
- ・お仏壇は死者をまつ場所ではありません。位牌はもちいせん。
- ・仏壇は家庭のなかで最も尊厳な場所であり、家庭生活の中心となるものです。
- ・仏壇は「心の鏡」です。いつもお荘厳（おかざり）をきれいにすることを心がけ、お給仕（花を替えたり、仏飯をあげたり、お供えをししたりする事）を大切にしましょう。

【お荘厳（おかざり）】

1 仏具の名称と配置



- ① お仏飯（ぶつばん）
- ② 華瓶（けびょう）
- ③ 供筭（くげ。お華束とも）
- ④ ろうそく立て
- ⑤ 香炉（こうろ）：（手前は）土香炉（奥には）香炉台、その上に金香炉
- ⑥ 花瓶（かひん）
- ⑦ 打敷（うちしき。大きさは卓より少し大きめ）
- ⑧ 経卓（きょうじょく。経机とも）
- ⑨ 御文章箱（ごぶんしょうばこ）
- ⑩ きん



【過去帳】

※左の図は「**法事用のお荘厳**」です。

※普段は、A「②華瓶」にシキミはいりません。B「③供筭」もしまいせん。C[④・⑤・⑥]は「三具足」にします（説明は次項）。D「⑦打敷」もしまいせん。

2 三具足と五具足

- ・「⑤香炉～⑦花瓶」には二種類のかざり方があります。

3 過去帳

- ・先祖の記録帳です。中段か下段あたりにご安置しましょう。

4 供物について

- ・法事の時、供筭の上にそなえます。
- ・餅が基本で、つぎに菓子や果物を対にします。肉や魚のたぐい、お酒は供えません。
- ・法事以外でも、いただきものはまずお供えし、**お下がり**として頂戴しましょう。

【日常のお給仕】

- ① お仏飯は朝そなえ、昼までに下げます。盛り方は蓮のつぼみのように。
- ② お茶や水はそなえせん。他宗のお札もいれせん。
- ③ 花瓶に四季それぞれの花を供えます。毒花やとげのあるものはさしひかえせん。造花はもちいせん。葬儀や中陰には、赤い色の花は避けせん。
- ④ 線香は立てずに、短く折って横にしてたきます。本数に決まりはありません。
- ⑤ 掃除は、まず羽ぼうきで軽くほこりをとります。金箔部分は拭かないように。



第三章 勤行（日常～お取り越し[在家報恩講]）

【朝の勤行】

・一日を仏さまへの挨拶から始めましょう。できる時は家族一緒につとめましょう。

1 作法

- ① 衣服をととのえて、念珠^{ねんじゆ}、またあれば門徒式章^{もんたしきしょう}を身につけます
- ② a 灯明^{ちやうめい}をあげ、b 香^{かう}をたき、c お仏飯^{ぶつはん}を供えます。 ※特に c は大切に
- ③ 合掌・礼拝^{らいはい}し、勤行^{ごんぎやう}をはじめます。勤行の基本は「正信偈と六首引、御文章」です。時には他のおつとめ（「讃仏偈」など）、「みじかいおつとめ」でも構いません。
※正信偈六首引は「ついたち礼拝」で行っています。
- ④ おわりに再度、合掌・礼拝。灯明がついていれば消し、お仏飯をさげます。

2 ご命日（祥月命日・月忌）

・故人の当月の命日を祥月命日^{しやうげつめいじつ}、さらに月々の命日を月命日^{つきめいにち}（月忌^{がつき}）といいます。浄土に先立っていかれた方の「ご命日」を、お念仏のみ教えを聞かせて頂く大切なご法縁^{ぽうえん}（勤行）としましょう。 ※「私の仏事暦」を利用ください。

3 毎月十六日は……

・宗祖親鸞聖人のご命日（1 月 16 日）の月命日です。できるだけ家族そろってお勤めし、宗祖のご恩、阿弥陀さまのお救い味わいましょう。

4 夕方の勤行

・夕食の前も、仏前で合掌・礼拝、勤行（『重誓偈』など）をしましょう。

【食前の言葉】

・食時での「合掌」は毎日の事だけに、感謝の心を養うために大きな働きをします。

1 作法

- ① 箸を置いて全員が合掌する。
- ② 一人が「**多くのいのちと、みなさまのおかげにより、この御馳走を恵まりました**」^{ごちそう}
- ③ 全員で、「**深くご恩を喜び、ありがたくいただきます。**」^{おん}
※「いただきます」の時に礼拝する。

2 食後の言葉

・食事の後は、各自「合掌、「ごちそうさまでした」、礼拝」でも結構ですが、できる時は全員で「食後の言葉」を。食前の言葉の②と③を下記に変更します。

- ② 「**尊いおめぐみをおいしくいただき、ますます御恩報謝につとめます。**」^{ごおんほうしや}
- ③ 「**おかげで、ごちそうさまでした。**」

【夏の仏事：盆づとめ】

・7 月中旬から 8 月上旬、一部の地域で行っています。ご希望の方はお電話ください。
・お荘厳は普段通りの「三具足」です。打敷は夏用があれば用意ください。
・お勤めは「讃仏偈（赤本の 64 頁）」、そして「領解文」を唱和します。

【最も大切な仏事「お取り越し」】

・本来は「報恩講（在家報恩講とも）」と言います。親鸞聖人の祥月命日（1 月 16 日）をご縁としてつとまる法要です。
・10 月中旬から年末にかけて遠方を除いたご門徒全てで行っています（保津の一部では 3 月から 4 月、六呂師は 4 月です）。
・事前に仏壇を整理し、掃除と仏具を入念にみがきます。お荘厳は五具足、仏華は松を中心とした仏華、供物は餅を中心とした供物です。最も丁寧にします。
・お勤めは「正信偈」です。

第四章 法座（お聴聞）

- ・浄土真宗の特徴は、なんと言っても法座です。彼岸、お盆に関らず、年中行います。
- ・法話（お説教）を聞くことを「お聴聞」といいます。説教ときくと「難解」なイメージがありますが、わかりやすくお話しくださるご講師がほとんどです。聴けば聴くほど味わいが深まっていきます。年に一度は必ずお聴聞しましょう。

【法座に参加するには？ 法座の流れ】

1 準備

- ・服装は平服で結構です。お念珠を持参しましょう。門徒式章、また「せいてん（赤本など）」があればなお結構です。

※はじめて参加の際「参拝カード」をさしあげています。法座に参るたびにシールをつけます。カードがたまれば粗品を進呈いたします。

2 本堂

- ・座る席を確保します。みな自由席です。着席したら、ご本尊に合掌、お念仏、礼拝します。

3 帳場

- ・つぎにご法札を納めます。本堂向って右側に帳場で納めます。
- ・ご法札はお布施で。お布施はお志なので定額ではありません。千円から五千円の間が多いようです。
- ・ご法札は法座中一回おさめれば何度参っても結構です。たとえば、二日間の日程で四席つとまる場合、四席ともご法札を納める必要はありません。また、ご夫婦やご家族づれでも人数分ではなく、一回でおさめます。

4 読経

- ・時間になると最初は「おつとめ」です。せいてんがない方もおわたしします。一緒におつとめいたします。

5 法話

- ・法話は前後半にわかれてそれぞれ35分程度あります。
- ・途中の入退室は周囲の迷惑にならないように気をつけましょう。

【法座日程（令和2年現在）】

月	法 要 名	内 容
1月	御正忌報恩講	ご開山のご命日（1月16日）を偲ぶ、一年で最も大切な法要です。
3月	春讃仏会 (彼岸会)	春のお彼岸をご縁とした法要です。
5月	宗祖降誕会	ご開山のご誕生（5月21日）を祝い、お礼をする法要です。
6月	雨安居 (仏婦法座)	しっとり慈雨の季節、仏婦が中心となる法要です。
8月	歓喜会 (盆会)	お盆をご縁とした法要です。
9月	秋讃仏会 (彼岸会)	秋のお彼岸をご縁とした法要です。
11月	永代経法要	永代経とは、懇志を納めることによって、永代にわたって寺院で読経がなされることをいいます。人生の支えとなるみ教え（経）を、子や孫に、永代に伝えていく法要です。

第五章 お世話人と門徒講金

【お世話人】

- ・地域によって、「お世話人制度」をもうけています。お世話人の期間は、一部を除いて、「一年間」です。一月の行事「報恩講法要」が終わってから、次の「報恩講法要」までです。
- ・現在、次の仕事があります。
 - ① 配り物：法座の10日前に発行する寺報などを配っていただきます。
 - ② 門徒講金あつめ：5月頃をお願いしています。
 - ③ 法座の奉仕：法座後の片付けをお願いします。担当地区はカレンダー（直枉カレンダー）の下「年間法座」に記載してあります。

【門徒講金】

- ・門徒講金は、本山への納付金・寺報の発行・本堂の護持などに大切に使われています。ご理解ご協力の程何卒宜しくお願い申し上げます。
- ・門徒講金は、年間「**4,000 円**」です。

第六章 法事（法要と食事[お斎]について）

【年回忌の法事】

1 法要の心得 ～大切におつとめいたしましょう～

- ・故人を偲び、命日をご縁として仏法に遇わせていただく行事です。
- ・1 周忌、3 回忌の後には、「7、13、17、25、33、50」回忌で、以降は 50 年ごとです。
- ・ご縁の方にはできるだけ案内し、尊い聞法の場としましょう。

2 法要の準備

- ・前日までにお仏壇を入念に掃除し、お莊嚴（お飾り）を整えます。
 - ※ 普段の三具足から五具足にします（香炉、ロウソク一対、花瓶1 対）
 - ※ 打敷を掛けます。
 - ※ お供え物（餅・菓子・果物）・ロウソク・花瓶等、きちんと左右対称にします。
 - ※ 電球がきれていないか確認。ロウソクも新しいものを使用します。
 - ※ 過去帳は故人の頁を開いてください。
 - ※ 経卓の脇に焼香用の盆、お客様が供えるお香料（御仏前）の盆を準備しておきます。
- ・住職の着替える場所をご用意ください（別部屋でなくても構いません）。
- ・礼服にこだわることはありませんが、落ち着いたものにします。
- ・家にある聖典をすべて準備ください。聖典は家族分あることが望ましいことです。
 - ※ お寺で販売しています（1 冊 250 円）。
 - ※ 古くなった聖典は住職が持ち帰りお供えしてしかるべき処分をいたします。

3 本堂の場合

- ・本堂に入る際は、かならず一礼し入堂します。その後、尊前で合掌（念仏）・礼拝し、イスにご着席ください。
- ・お布施・お供えを住職にお預けください。仏前へお供えいたします。
- ・お客様の御香料（御仏前）等もお供えいたします（法事後にお返しします）。

4 お斎について

- ・準備が整った後、主人は末席から挨拶します。
- ・「献杯」よりも「合掌」・「食前の言葉」がふさわしいです。
 - （一人）：多くのいのちと皆さまのおかげによりこのご馳走をめぐまれました。
 - （一同唱和）：深く、ご恩をよろこび、ありがたくいただきます。
- ・本堂での法要の後、隣にある門徒会館もご利用できます（会館利用費：1 万円）

5 その他の心得

- ・法事へ招かれて行く場合、施主宅に着いたら、まずお仏壇の前に進みご本尊に合掌礼拝します。その際に鑿（お鈴）は鳴らしません。御香料（御仏前）等をお供えします。
- ・故人への最高の追慕は遺された人々が仏法をお聴聞することです。法事をつとめた年は特に時間をやりくりして、各法座にお聴聞にお参りください。

【その他の法要】

- ・入仏式：新しくお仏壇を購入した時におつとめします。
 - ※関連：遷仏式（お仏壇を引っ越す時）
- ・建碑式：お墓を初めて建立した時におつとめします。
 - ※関連：納骨式、遷墓式（お墓を移す時）
- ・初産式：赤ちゃんが生まれたらおつとめします。
 - ※関連：仏前結婚式
- ・納車奉告式：車を購入した時におつとめします。
 - ※注意：車のお祓い（安全祈願）ではありません。大きな買い物のできた事を仏前に奉告します。

ワンポイント アドバイス

- ・お寺へのつつみには「お布施」と書きます（「回向料」「読経料」とは書きません）。
- ・お参りに行かれた時は「御仏前」と書きます。

第七章 葬儀

【葬儀とは】

この世での最後のお別れをする儀式です。亡き人を縁として、改めて生かされているいのちの尊さを知らされます。念仏の道のかけがえのなさを教えられる時です。

世間にある風習や俗信、迷信に振り回されることのない葬儀を執り行います。

【葬儀の手順】

1 寺院への連絡

- ・あわてなくて結構です。深夜にお亡くなりになった場合、翌朝ご連絡ください。

2 臨終勤行（枕 経）：人生の終わりに臨み、永年導いてくださって阿弥陀如来へのお礼

- ・ご遺体の安置は、無理に北枕にする必要はありません。
- ・仏壇のお飾りは、打敷は裏地（白）とし、花は白か青木にします。
- ・遺族代表者（喪主）を決めます。
- ・故人の法名を確認します。

3 通夜勤行：葬儀前夜に近親者知人等が集まり故人を偲びつつ、み教えに出会う場

- ・ご本尊の前でお参り（おつとめ。正信偈）をします。一緒につとめましょう。
- ・水や茶、一膳飯は供えません。

4 葬儀（告別式とは言いません）

- ・葬儀は、最期の厳粛なおつとめです。そのため、おつとめ中は会葬者への答礼は慎み、遺族代表挨拶を通してお礼申します。
- ・阿弥陀如来の前で遺族が故人とのお別れをご本尊の前でお参り（おつとめ。正信偈）をします。一緒につとめましょう。
- ・俗信・迷信に振り回されないようにしましょう。例）①清め塩。②出棺の時、茶碗を割ったり棺を回す。③火葬場からの帰りの道順をこだわる。

5 還骨勤行（灰葬参り）

- ・火葬場からお寺へ来て、最期のお勤めをします。場合によっては初七日も一緒に。
- ・今後の中陰法要（七日参り）、満中陰法要（喪が明ける節目の法要）を相談します。

【服喪の心得】

◆仏壇：丁重にお掃除、清楚（せいそ）にお飾りください。

◆中陰壇（ちゅういんだん）：遺骨・遺影・法名板（仮位牌）は床の間に別にご安置。

◆朝夕のお礼：朝な夕なにお勤めください。【手順】①電気のおひかりをつける、②ろうそく、③お線香、④お仏飯（ぶつぱん）のお供え、⑤読経「讃仏偈」（さんぶつげ）

◆精進（しょうじん）：命の尊さを思い、「せめて朝だけは魚肉を食すのをやめよう」等の工夫をしてください。

◆満中陰（まんちゅういん）：「三月（みつき）ごしはいけない」は、基本的に迷信です。

◆納骨：日程の決まりはありません。いつでも納骨できます。

※当山には「納骨堂」があります。まだ墓石のない方はご検討ください。

◆聞法（もんぼう）：故人への最大の供養は、ご家族がお寺で聞法（もんぼう）される事です。故人との別れを無駄にしない尊い姿です。

※服喪中こそ、お寺の法要で聴聞（ちようもん）いたしましょう。

◆分骨については「**コラム3 分骨について（大谷本廟への分骨）**」をごらんください。

【初盆】

葬儀後、最初のお盆を「初盆」といいます。7月下旬から8月の中旬で都合の良い時間を決め、おつとめ（『阿弥陀経』の六方段）します。仏壇のお飾りは喪中と同じく「お荘厳は打敷は裏地（白）とし、花は白か青木に」します。

【納骨】

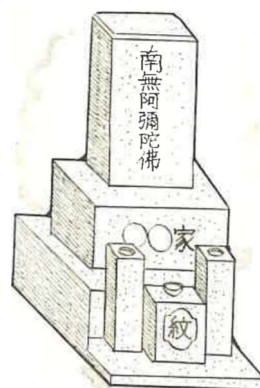
納骨の日取りに決まりはありません。一緒に「納骨式（法要）」をします。

第八章 お墓・納骨堂・永代供養墓

【お墓】

1 お墓の建て方

- ① まずはお寺へ相談ください。
- ② 形に決まりはありませんが、石碑の正面は「南無阿弥陀仏」か「倶会一処^{くゑいつしよ}」。家名は台石に刻むのがのぞましいでしょう。
- ③ 「吉日」の文字は刻まないようにしましょう。
- ④ 「霊標」ではなく「法名碑^{ぽうめいび}」と刻みましょう。
- ⑤ お墓が建ったらお祝いの「建碑式^{けんひしき}（法要）」をつとめます。「お性根^{しょうね}いれ」「開眼法要」とは言いません。



2 お墓について

- ・浄土真宗のお墓は、「先祖の願いを聞き仏法を味わう場」です。
※詳しくは下記「浄土真宗のお寺とお墓」をお読みください。
- ・姓の違う故人でも納骨できます。「遺骨＝故人」ではありません。

【納骨堂の案内】 ※専徳寺に所属のご門徒のみ

近年の社会問題になっている少子高齢化や無縁墓といった実状に応えるため、2009 年（平成 21 年）に第一納骨堂、2023 年（令和 5 年）に第二納骨堂を境内に建設しました。

1 費用について（第2納骨堂）

- ・大型区画（納骨数 12 ～ 16）：加入冥加金 120 万円、年間維持費 4,000 円
- ・小型区画（納骨数 4）：加入冥加金 60 万円、年間維持費 2,000 円

※年間維持費を「永代供養費（永代維持費）」にする場合は 20 万円

2 申し込みの流れ

- ①ご来寺・見学 → ②希望の区画を選定 → ③申込書等に記入・捺印。加入冥加金と維持費（5 年分）を納める。

3 注意事項

- ※ 火（ロウソク・線香）の使用はできません。
- ※ 花瓶に水はいれないでください。お参りの後、お花は持ち帰るか、所定の場所へ。
- ※ お供物はお参りの後、必ずお持ち帰りください。
- ※ お参りが済んだら、納骨壇の扉は必ず閉じてお帰りください。
- ※ お参りの時間は「午後 8 時～午後 5 時」（お盆・お彼岸中は「午後 7 時～午後 7 時」）

【永代供養墓の案内】 ※専徳寺に所属のご門徒のみ

専徳寺は合祀墓（骨を骨壺から取り出し、複数まとめて一緒に埋葬）もあります。

1 場所について

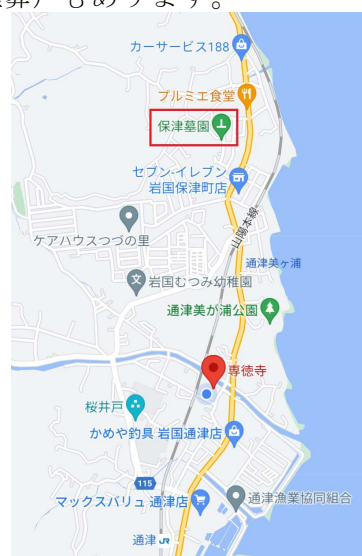
- ・保津墓園（岩国市保津町 2 丁目 1 4）内
※右図参照
※専徳寺から車で 4 分

2 費用について

- ・1 人 40 万円
（入会・永代供養費）

3 申し込みの流れ

- ①ご来寺・見学
②申込書等に記入・捺印。加入冥加金を納める。



第九章 各種組織と活動

【仏教婦人会】

専徳寺の女性なら誰でも参加できます。一緒にみ教えにふれましょう。

1 活動内容

- ・ 月例会（げつれいかい）（毎月第2月曜日 10～11時）
【内容】前住職法話、合唱練習（仏教讃歌と唱歌等）
季刊誌『めぐみ』の貸し出し
【持ち物】念珠・式章・仏教讃歌
- ・ 役員会（年1回）
- ・ 各法座のご報謝
- ・ 仏婦法座（年1回）
- ・ その他… 岩国組・山口教区への行事（勉強会、若婦勉強会）の参加。
プルトップ収集
- ・ 研修親睦旅行（2年に一度）



2 仏教婦人会の綱領

わたくし しんらんしょうにん おし みちび
私 たちは、親鸞 聖人のみ教えに 導かれて

ひと しあわ ねが あ み だによらい こころ
すべての人びとの 幸 せを願われる阿弥陀如来のお 心 をいただき

じ た こころゆた い しゃかい
自他ともに、心豊かに生きることのできる社会をめざし

あゆ すす
ともに歩みを進めます

ちようもん
一、お 聴 聞を大切にいたします

な も あ み だぶつ わ
一、「南無阿弥陀仏」の輪をひろげます

ほとけ ねが い かた
一、み 仏 の願いにかなう生き方をめざします



【専徳寺倶楽部】

専徳寺の男性なら誰でも参加できます。一緒に美しいお寺を作りませんか？

1 活動内容

- ・ 夏の集い（7月の最終土曜日を予定 15時半～20時）
【内容】仏具磨き、親睦会
- ・ 冬の集い（12月中旬）
【内容】境内の清掃、忘年会
- ・ 研修親睦旅行（2年に一度）

【キッズ・サンガ（子供会・日曜学校）】

1 活動内容

- ・ 月例会（毎月第二日曜日 8時半～10時）
【内容】おつとめ（作法）タイム、法話タイム、ゲームタイム、おやつタイム
- ・ 夏の寺子屋（8月最初の一週間）
【内容】宿題会（月～木の8時半～11時）、一泊合宿（土曜日16時～）

第十章 門徒会館利用会則

専徳寺門徒会館利用会則

時代の変化（住居事情・駐車事情）や高齢化（正座の困難など）などにより大切な仏事（葬儀・法事など）が自宅でできないと悩まれるご門徒が多くなりました（遠くはなれた葬儀会館で葬儀をせざるをえないのですとか…、法事の会食は別の場所に移動せねばならないのですとか…）。

専徳寺ではこうした時代を見こして昭和 47 年に庫裏（一部門徒会館）を建設いたしましたが、おおきな変化は見とおしをうわまわり、現状はじゅうぶんにみなさまの要望にこたえきれていません。

そのため、ご門徒のあらゆる仏事のニーズにこたえ、安心して有意義に仏事をつとめるための新門徒会館（以下「新」）の建設がいそがれますが、そのためには準備期間もあるていど必要です。

そこで現状の庫裏（一部門徒会館）をじゅうぶんではありませんがご門徒に積極的に活用いただくよう、このたび以下のごとく会則をさだめました。

みなさまにはどうぞ気軽にご利用くださいますとともに、将来の新門徒会館建設へのご理解をたまわりますようお願いもうしあげます

（利用費用は全額門徒講金に入金いたします）

平成 24 年 4 月 21 日
専徳寺住職 弘中満雄
専徳寺門徒総代一同

記

◎葬儀の場合

①臨終勤行（枕経）…現状では本堂も会館も利用が困難です。

※ 「新」では可能にしたいと思います。

②通夜…本堂にて勤修。 本堂利用費用＝30,000 円

※火の用心には十分な配慮が必要です。

③葬儀…本堂にて勤修。 本堂利用費用＝50,000 円 会館利用費用＝20,000 円

※会館は冷暖房完備です。本堂は暖房のみ。

◎法事の会食を門徒会館でする場合 会館利用費用＝10,000 円

一日＝一席のみ 会食時間＝12 時～15 時、人数 30 人まで可能（全椅子席）

※ 「新」では複数席可能にしたいと思います。

※料理の仕出店は自由です。

※門徒台所を使用できます。

※給仕などお手伝い人をお願いする場合はその人への謝礼は別になります。

◎慶 祝 事（初参式・還暦などの歳祝い） 会館利用費用＝10,000 円

上記と同じ。

※ 「新」ではこうした仏事を積極的におすすめしたいと思います。

付則 この会則は平成 24 年 6 月 1 日より施行いたします。

コラム1 言葉がかわれば（浄土真宗の言葉づかい）

「門徒物忌み知らず」というように、浄土真宗では「忌み言葉」というのがありません。
「あんな事をいったら縁起が悪い」という習慣がないのです。
だからこそ浄土真宗にふさわしい言葉遣いをみにつけたいものです。

ケース1 葬儀などで注意する言葉

【不適切な言葉】		【適切な言葉】
戒名（かいみょう）	→	法名（ほうみょう）
霊、みたま	→	故人
御霊前	→	御仏前
天国、黄泉、冥土	→	浄土、み仏の国
草葉の陰で	→	お浄土で
永眠する、昇天する	→	浄土に往生する
安らかにお眠りください	→	私たちをお導きください
冥福を祈る	→	哀悼の意を表す、 謹んでお念仏申す
祈る・黙祷	→	念ずる
回向をたまわる	→	読経、お勤めいただく
追善供養	→	追悼法要
永代供養	→	永代経
告別式	→	葬儀

ケース2 その他

【不適切な言葉】		【適切な言葉】
和尚さん	→	ご院（家）さん、住職さん
性根入れ、開眼法要	→	建碑式
	→	

コラム2 これだけは知っていてほしい（浄土真宗の教章）

浄土真宗の教章（私の歩む道）

【宗 名】 じょうどしんしゅう
浄土真宗

【宗祖（しゅうそご開かい山）】 親鸞聖人（しんらんしょうにん）
・ご誕生： 1173年5月21日（じょうあん承安3年4月1日）
・ご往生： 1263年1月16日（こうちやう弘長2年11月28日）

【宗 派】 じょうどしんしゅうほんがんじは
浄土真宗本願寺派

【本 山】 りゅうこくざん 龍谷山 ほんがんじ 本願寺（にしほんがんじ西本願寺）

【本 尊】 あみだによらい 阿弥陀如来（なもあみだぶつ南無阿弥陀仏）

【聖 典】 ＊釈迦如来が説かれた「じょうどさんぶきやう浄土三部経」
・『仏説無量寿経』（ぶっせつ むりやうじゅきやう）
・『仏説観無量寿経』（ぶっせつ かんむりやうじゅきやう）
・『仏説阿弥陀経』（ぶっせつ あみだきやう）

＊宗祖 親鸞聖人が著述された主な聖しやうぎやう教

- ・『しやうしんねんぶつげ正信念仏偈（『きやうぎやうしんしやう教行信証』の行巻末の偈文）』
- ・さんじやうわさん三帖和讃：①『じやうどわさん浄土和讃』②『こうそうわさん高僧和讃』③『しやうぞうまつわさん正像末和讃』

＊中ちゆうこう興の祖 蓮れん如上人のお手紙

- ・『ごぶんしやう御文章』

【教 義】

あみだによらい阿弥陀如来の本願力によって 信心をめぐまれ、念仏申す人生を歩み、この世の縁きやうけが尽きるとき浄土に生まれて仏となり、迷いの世に還かえって人びとを教化する。

【生 活】

親鸞聖人の教えにみちびかれて、阿弥陀如来のみ心を聞き、念仏を称えつつ、つねにわが身をふりかえり、慚愧（ざんぎ）と歓喜（かんぎ）のうちに、現世祈禱（げんぜきとう）などにたよることなく、御恩報謝の生活を送る。

【宗 門】

この宗門は、親鸞聖人の教えを 仰ぎ、念仏申す人々の集う同朋教団どうぼうきやうだんであり、人々に阿弥陀如来の智慧ちえと慈悲じひを伝える教団である。それによって、自他ともに心豊かに生きることのできる社会の実現に貢献する。

コラム3 分骨について（大谷本廟への分骨）

【分骨の由来】

1 大谷本廟とは

- ・京都東山五条にある大谷本廟は本願寺発祥のゆかりの地です。親鸞聖人をはじめ歴代宗主のご廟所（墓所）です。

2 分骨のいきさつ

- ・「聖人の墓所である〈祖壇〉のおそば近くに納骨（または分骨）させていただきたい」という思いから、全国の門信徒が納骨をされます。毎日大勢の人たちが参拝され、香煙が絶えません。浄土真宗の門徒として、本廟への分骨をおすすめします。
- ・本廟内の納骨所「無量寿堂」に二ヶ所、専徳寺用の納骨壇をいただいております。

3 団体参拝と個人参拝

- ・各年で一泊二日の「団体参拝」を計画しています。本廟へ納骨し、また翌朝、ご本山で帰敬式を受式します。
- ・個人（家族）でも参拝・納骨できます。納骨の際は専徳寺へご連絡ください。証明書が必要です。

【大谷本廟の場所・アクセス】

1 住所と地図

住所：〒605-0846 京都市東山区五条橋東 6 丁目 514

Tel: (075) 531-4171(代) Fax: (075) 531-2072



2 アクセス：JR「京都駅」から

- ・市バスを利用するのなら、「烏丸中央口」を出てバスのりばへ。206番に乗車し、「五条坂」で下車します。
- ・タクシーの場合、乗車時間は約10分です。行き先は「五条坂の西大谷」と伝えま

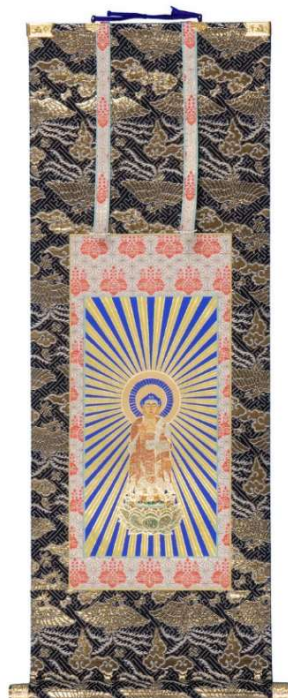
コラム4 お仏壇には、中央にご本尊、両脇にお脇掛けをお掛けします

【お脇掛け（左）】



蓮如上人

【ご本尊】



阿弥陀如来

【お脇掛け（右）】



親鸞聖人

【お脇掛け（左）】



九字名号
(南無不可思議光如来)

【ご本尊】



六字名号
(南無阿弥陀仏)

【お脇掛け（右）】



十字名号
(帰命尽十方無碍光如来)

【表装の種類及び掛け軸の大きさ】

ご本尊やお脇掛けの表装及び大きさはご自身で選んでいただけます。

金 欄



桐



藤



【冥加金】

種別	仕様	本尊 (絵像) (六字名号)	親鸞聖人 蓮如上人 (各一幅)	九字名号 十字名号	三福
二十代 19.7×9.1	金欄	¥35,000	¥35,000	¥70,000	¥105,000
	桐	¥25,000	¥25,000	¥50,000	¥75,000
	藤	¥15,000	¥15,000	¥30,000	¥45,000
二十代特小 17.0×8.5	桐				
三十代 27.3×9.1	金欄	¥35,000	¥35,000	¥70,000	¥105,000
	桐	¥25,000	¥25,000	¥50,000	¥75,000
	藤	¥15,000	¥15,000	¥30,000	¥45,000
五十代 34.8×12.1	金欄	¥35,000	¥35,000	¥70,000	¥105,000
	桐	¥25,000	¥25,000	¥50,000	¥75,000
	藤	¥15,000	¥15,000	¥30,000	¥45,000
七十代 42.2×15.2	金欄	¥50,000	¥50,000	¥100,000	¥150,000
	桐	¥33,000	¥33,000	¥66,000	¥99,000
	藤	¥20,000	¥20,000	¥40,000	¥60,000

※くわしくは、右の QR コード「本願寺の HP」より

